



BOJ *Reports & Research Papers*

2019年9月20日

東北の主要夏祭りの動向

日本銀行青森支店
日本銀行秋田支店
日本銀行仙台支店
日本銀行福島支店

照会先：日本銀行青森支店：017-734-2154
日本銀行秋田支店：018-824-7802
日本銀行仙台支店：022-214-3120
日本銀行福島支店：024-521-6353

本稿の内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め日本銀行仙台支店までご相談ください。また、転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。

1. 入込客数等の状況¹

東北の主要夏祭りの入込客数は、2011年に東日本大震災の影響から大きく落ち込んだものの、その後は、東北絆まつりの開催など官民連携によるPR活動の強化や、2016年におけるユネスコ無形文化遺産への登録による知名度向上、交通インフラの整備も進んだことで、国内客は持ち直しの傾向が継続している。また、外国人観光客についても、各県知事によるトップセールスを含む官民連携による現地でのPR活動の強化や、海外定期航空便の増加、大型クルーズ船の誘致活動などを背景に増加傾向にある。こうした下、2019年は、多くの夏祭りでは天候に恵まれたこともあって、1,616万人（前年比+5.0%）と、東日本大震災以前である2010年の水準を上回り、比較可能な期間（過去10年）で最高の入込客数を記録した。

▽東北の主要夏祭りへの入込客数の推移

（単位：万人）

	2010年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年
合 計	1,597	1,500	1,524	1,540	1,418	1,525	1,541	1,549	1,539	1,616

▽各夏祭りへの入込客数の状況

（単位：万人、%）

	開催地	入込客数						開催期間
		2010年	2017年	2018年	2019年			
					2018年比	2010年比		
青森県		710.8	712.2	704.2	727.0	3.2	2.3	
青森ねぶた祭	青森市	297.0	282.0	280.0	285.0	1.8	▲4.0	8/2（金）～8/7（水）
弘前ねぶたまつり	弘前市	163.0	163.0	160.0	168.0	5.0	3.1	8/1（木）～8/7（水）
五所川原立佞武多	五所川原市	147.0	118.0	124.0	129.0	4.0	▲12.2	8/4（日）～8/8（木）
八戸三社大祭	八戸市	103.8	149.2	140.2	145.0	3.4	39.7	7/31（水）～8/4（日）
秋田県		251.0	257.0	256.0	258.0	0.8	2.8	
秋田竿燈まつり	秋田市	135.0	131.0	130.0	131.0	0.8	▲3.0	8/3（土）～8/6（火）
全国花火競技大会	大仙市	80.0	74.0	75.0	75.0	0.0	▲6.3	8/31（土）
土崎港曳山まつり	秋田市	17.0	26.0	28.0	30.0	7.1	76.5	7/20（土）～7/21（日）
花輪ばやし	鹿角市	19.0	26.0	23.0	22.0	▲4.3	15.8	8/19（月）～8/20（火）
岩手県		168.8	172.6	158.2	175.8	11.1	4.1	
盛岡さんさ踊り	盛岡市	135.2	133.5	133.0	149.1	12.1	10.3	8/1（木）～8/4（日）
北上・みちのく芸能まつり	北上市	33.6	39.1	25.2	26.7	6.0	▲20.5	8/2（金）～8/4（日）
山形県		146.0	154.0	146.0	154.0	5.5	5.5	
山形花笠まつり	山形市	100.0	99.0	97.0	98.0	1.0	▲2.0	8/5（月）～8/7（水）
新庄まつり	新庄市	46.0	55.0	49.0	56.0	14.3	21.7	8/24（土）～8/26（月）
宮城県		235.7	178.6	202.6	224.9	11.0	▲4.6	
仙台七夕まつり	仙台市	235.7	178.6	202.6	224.9	11.0	▲4.6	8/6（火）～8/8（木）
福島県		84.9	74.4	72.4	76.5	5.7	▲9.9	
相馬野馬追	相馬市他	21.4	16.4	13.1	16.3	24.4	▲23.8	7/27（土）～7/29（月）
郡山うねめまつり	郡山市	35.5	30.0	30.0	30.0	0.0	▲15.5	8/1（木）～8/3（土）
福島わらじまつり	福島市	28.0	28.0	29.3	30.2	3.1	7.9	8/2（金）～8/3（土）
合 計		1,597.2	1,548.8	1,539.4	1,616.2	5.0	1.2	

（注）入込客数は、千人未満を切り捨て。

（出所）各祭り運営本部

1 八戸三社大祭の2017年は、ユネスコ無形文化遺産への登録を記念し、開催期間を1日延長した。また、北上・みちのく芸能まつりは、2018年から集計方法を変更している。

各夏祭りの入込状況の特徴をみると、総じて天候に恵まれた中、「高速道路の開通効果」や、「2016年におけるユネスコ無形文化遺産への登録による知名度向上」などを背景として、県内他地域や隣県からの来客が増加した。運営者側の取組みをみると、「ラグビーワールドカップ2019関連のパレード実施」など、今後開催を控える国際的イベントとの連携や、「例年翌週に行われていたイベントを祭りの翌日に開催」するといった工夫がみられたほか、「写真撮影スポットの紹介」や「祭り衣装を着て写真撮影するブースを設置」するなど「写真映え」を意識したコンテンツの強化を図ることで誘客に繋げる動きも目立った。こうした下、観覧席販売についても、「インバウンド客の購入もみられ、早い段階で完売」となるなど、好調な様子が窺われた。

この間、外国人観光客の動向をみると、入込客数は絶対数こそまだ国内客と比べて少ないものの、「外国人観光客は年々増加傾向にあり、今年は過去最高を記録した」との声も聞かれた。国・地域別にみると、引き続き、台湾や中国を中心としたアジア圏の団体客が中心ながら、今年の特徴として「欧米圏やオーストラリアからの観光客も目立った」とか、「リピーターとして毎年祭りに参加する個人客も増えはじめている」との声も聞かれた。こうした中、運営者側では入込客数の増加に向けて、前年に続き「大型クルーズ船の乗客向けに港湾と市内中心部を結ぶ臨時列車を増便した」とか、「公式ホームページの多言語化」や「祭りの情報を多言語で閲覧できるスマホアプリの導入」、「海外で馴染みのあるスマートフォンアプリを使用したタクシー配車サービスの実施」などの受入れ体制の整備を図っている。

来年は東京オリンピック・パラリンピックの開催期間と夏祭りの会期が重なることから、首都圏から周遊する外国人観光客の増加が期待される。この点、当地における外国人観光客の更なる取込みに向けては、東京オリンピック・パラリンピックを「商機」と捉え、東北6県が連携しつつ、東北全体をブランド化した情報発信の強化や、ニーズに見合ったコンテンツの拡充、二次交通網の整備など受入れ体制の一層の整備を進めていくことが求められる。なお、東京オリンピック・パラリンピックの開催期間中は、東北経済連合会が中心となって、全世界に東北の魅力を発信する拠点「東北ハウス」を東京都内に設置することが計画されているが、有意義な取組みと考えられる。

2. 関連ビジネスの動向

(1) 消費動向

飲食関連の販売状況をみると、気温が高く推移したことで、「ビールや清涼飲料水、かき氷の販売が特に好調だった」との声が多かった。この他、入込客数が増加した

夏祭りでは、「メイン会場周辺のみならず、サブ会場や周辺商店街にも観光客が繰り出し、飲食店は賑わいをみせていた」との声が聞かれたほか、「地元の海産物を扱う飲食店で売上が増加した」、「牛タン専門店が長蛇の列ができていた」など、ご当地グルメの飲食ニーズが高まりをみせた様子が窺われた。また、運営者側でも、にぎわい創出や波及効果拡大を企図して、屋台の近くに設置する飲食席を増設したところ、「昨年以上の盛況だった」ケースなどもみられた。

物販関連の販売状況を見ると、地元名産の食材を使用した菓子類や、漬物などの伝統食品が引き続き人気で、「試食販売を強化したことでまとめ買いをする観光客が増加」し、客単価の上昇に繋がったケースもみられた。また、「欧米圏の観光客に地元の朝市で働く女性の衣装セットが良く売れ、その場で着替えて買い物を楽しんでいた」とか、「外国人観光客が増加する下、観光施設におけるスマホ決済サービスの導入を図った」など、外国人観光客のニーズを上手く取込み、売上増加に繋げる動きもみられた。

(2) ホテル・旅館の稼働状況

ホテル・旅館の稼働状況を見ると、例年同様、夏祭り期間中はほぼ満室となった先が多くみられた。一部の宿泊施設では祭り期間中の客室単価を上げたものの、「ほぼ満室」となるなど需要の底堅さが確認された。もっとも、宿泊キャパシティの大きな大都市等からは、「首都圏からの周遊客が宿泊せずに帰ってしまう」など、当地における観光需要の取りこぼしを指摘する声も聞かれており、ナイトタイムエコノミーの充実化など、当地での宿泊を促し、消費に繋げる取組みの強化が課題として窺われた。

3. 夏祭りの担い手不足

地域における高齢化の進展や若年人口の減少により、夏祭りを含む地域の伝統行事の担い手不足や、地域企業の人手不足による祭りの運営・運行への支障発生が大きな課題となっている。今回調査において、主要夏祭りの担い手や運営・運行人材の状況を確認したところ、①踊り手や山車の曳き手、②山車・飾り物を作製する職人、③囃子等の演奏者を中心に担い手が不足している様子が複数の夏祭りで窺われた。こうした中、実際に「山車の曳き手が不足し参加を見合わせる町内会が発生」、「作製・設置が重労働な飾り物をダウンサイズ化した」、「高い演奏技術を要する楽器奏者が不足している」といった声や、「参加者が年々減少傾向にあり、今後、祭りの規模縮小も検討せざるを得ない」ようなケースもみられはじめている。

また、交通誘導員や警備員の確保が年々困難化し、「単価引き上げにより予算を圧

迫している」とか、「来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されるため、人手確保や更なる費用増加に強い危機感を持っている」との指摘が相次いだほか、夏祭りの参加者や運営者でも「企業の人手不足もあって、夏祭りの参加に向けて仕事を早退することが難しくなっている」ことで、運行面への影響を懸念する声が聞かれた。

この間、地域では、祭りの実行委員会等による次代の踊り手、楽器演奏者の確保・育成に向けた子供向けの講習会等が開催されているほか、行政でも、山車の曳き手確保に向けて企業に参加を依頼するなど、各主体において担い手確保に向けた取組みがみられている。夏祭りは、地域固有の伝統文化や地域コミュニティの維持・活性化といった面で大きな価値を持つのは言うまでもないが、2019年の入込客数は比較可能な期間（過去10年）で最高を記録しており、また、地域のシンボルとして、夏祭り会期外を含む外国人観光客の誘客促進に貢献するなど、経済的な価値も高まっている。一方で、運営や実施に係る負担を従来の運営者や参加者に求め続けるだけでは、中長期的に継続が困難な状況に直面していく先もあると思われる。東京オリンピック・パラリンピックが開催される来年は、こうした論点を考える機会となり得る。夏祭りの存続・発展に向け、運営者や行政、地域企業のほか、住民を含む地域のステークホルダーが、祭りの伝統や意義を踏まえつつ、内容やコスト負担の在り方などを見直しつつ、担い手確保等の課題への対応に向けた連携や取組みを一層強化していくことが期待される。

以 上